

2024年1月20日（土）

13:00-16:30

会場/ 東洋大学 白山校舎
8号館7階125記念ホール

+オンライン (Webex)

参加費無料

主催：東洋大学福祉社会開発研究センター
共催：世田谷区子ども若者部保育課

子どもの権利を支える 保育について考えよう

－世田谷区の取り組みから－

自治体の保育施策ができること －東京都世田谷区の保育の量と質の拡充を目指して－

世田谷区と東洋大学福祉社会開発研究センターは2013年度から共同研究を始めました。研究倫理などを含めた協定を結び、最初の5年間は母子家庭支援、近年の5年間は保育を中心にして、当事者主体の実践研究を進めてきました。世田谷区は認可保育所待機児が2010年代には待機児日本一の不名誉な整備状況にありました。保育の量を増やすことと同時に質の整備を進めることが課題でした。2017年度以降、待機児は減少に転じ、2020年度には0になり、本格的に保育の内容を子どもや子育て家庭の必要性に合致させて、子どもの権利の具体化に取り組むことに挑戦をしています。

認可保育所を10年間で約1.75倍にするためには、多くの保育所や保育者の協力を仰がねばなりません。そうしたなかで、多様な時間帯や預け方への対応、障がい、病気、多文化など多様な状況にある子どもたちを受け入れていく保育を具体化するにはどのような配慮や取り組みがもめられたのでしょうか。共同研究5年目の節目に当たり、実践研究報告をもとに今後の支援や研究課題を考えてみたいと思います。

当日の内容

1. 世田谷区の保育の量と質の向上の取り組み
大里貴代美 保育課 保育の質向上担当副参事
2. 世田谷区の保育サポート体制
伊藤美智子 保育課 保育育成支援担当係長
3. 世田谷区の特徴的な実践／当事者主体の保育実践システム
気づく力を養う、気づく力を支える－アセスメントシート、SVより－
上田美香 東洋大学福祉社会開発研究センター
多様な状況の子を支える
 - 母語を外国語とする方への支援－区立保育園の実践より－
麗麗 東洋大学助教 福祉社会開発研究センター
田中剛 保育課 保育育成支援担当係長
 - 社会的養護と連携する保育－区立保育園の実践より－
坂口由美子 世田谷区立保育園長
 - 医療的ケア児の保育－区立保育園の実践より－
中由加利 世田谷区立保育園長
小林みゆき 世田谷区立保育園看護師
神谷真由美 保育課保育育成支援担当看護師

コーディネーター：森田明美 東洋大学名誉教授 福祉社会開発研究センター

会場への
アクセスは[こちら](#)



オンラインでの
参加は[こちら](#)



問合せ先

東洋大学福祉社会開発研究センター
TEL：03-5924-2241 Mail：cdws@toyo.jp